

ヨコハマ市民まち替請事業

第二次整備提案書

※ 記入上の注意

- 2号様式はページを増やさず、必ず3ページ以内でまとめてください。
- 2号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

1 整備提案の概要について

整備提案名	太陽とコミュニティで耕すもろおかエコステーション
提案グループ名	熊野の森もろおかスタイル
整備場所の所在地 (町名又は丁目まで記入)	港北区 師岡町
施設整備の概要	<p>「住宅街のなかで地域の人々に開かれた交流拠点がほしい」という住民ニーズと「エネルギー・防災・農・食について考えるモデル拠点がほしい」というグループの活動をマッチングし、『農・食・環』体験交流の場（エコステーション）を創る。</p> <p>① 門扉、活動案内の看板、畑やハーブガーデン・花壇・通路の整備 ② 日除け、ウッドデッキ（縁側）付きのお休みどころなどの整備 ③ 雨水タンク、燃料資源置き場、簡易トイレなど、防災体験設備の整備 ④ ソーラーパネル、蓄電池、発電量が見えるパネル、生ゴミコンポスト、LEDなど、省エネ・資源循環の発信拠点の整備</p>
整備助成金申請 予定額	300 万円
設計及び整備の スケジュール	<p>2017年4月 詳細設計完成。設計図をもとに、協力者等のアドバイスを受けながら、必要事項については専門業者に委託。</p> <p>2017年4月～9月 工事は基本的に土日。工事はできるだけ地域住民で行う。 （カフェ形式で交流会も行いながら施工）</p>

2 創意工夫について

<p>計画について、特に工夫した点を記入してください。 （住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデアやユニークさ及びデザインへの配慮）</p>	<p>参加しやすいオープンスペースをつくるため、エコシステム・まちづくり・防災の専門家、学童指導員、町内会の役員など地域の様々な方に意見を伺った。これまで取り組んできた以下のプログラムを基本に、年齢やテーマ毎の拡がりをもって実行できるよう計画をまとめた。</p> <p>① 畑の作物やハーブを共に育て、収穫-調理-食事の流れを体験できるプログラムの充実。子どもたちが遊べる緑の広場を整備 ② 災害時にも役立つエコストーブ、ソーラークッカーを使った「朝ごはん会」の拡充（これまで開催の「エコストーブde朝ごはん」会：エコストーブを使って薪と羽釜でごはんを炊き、持ち寄りおかずを分け合う食事会） ③ ソーラーパネルで蓄電された電力を使い、草刈り機やラジオ、パソコン、携帯電話の充電等、暮らしの中で欠かせないエネルギーを考える体験ができるプログラムを拡大 ④ コンポストでの堆肥作りを通して、子ども達に人気のカブトムシの養殖をすすめ、自然循環の断面が学べるプログラムを新規に開発 ⑤ 地域の技術者等の協力で、ものづくりのプロセスを楽しみながら、多くの地域住民の参加を促す場を多彩に用意し、参加型で拠点を整備し、「エネルギー自給自足」のモデルを創出</p>
---	--

<p>整備における地域での費用や労力の負担について、特に工夫した点を記入してください。</p> <p>※ 詳細については、「想定整備費用内訳書（第3号様式）」に記入してください。</p>	<p>住民参加型の整備で、整備費用や労力の負担を縮小に務めた。なお、参加者同士がイメージを共有するため設計図をもとに模型づくりから共同で行う。</p> <p>【住民参加型の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS、ちらし手配り、口コミなどで告知。多様な住民参加を図る。 ・ レンガや木質チップ敷き詰めなどによる農道整備、ブロック・木材キット等の組み立てなど、基盤や施設整備は男性や若者を担い手に集める。 ・ 朝ごはん会・ピザ窯づくりワークショップ・ソーラー茶会（ソーラークッカーで沸かした湯で茶をたてる）など食に関わるイベントとセットで整備。 ・ 青空落語会／読み聞かせ会・綿摘み体験／コットンパールづくりなど、体験型お楽しみイベントでファンを増やしつつ、共同作業により相互の結束と労力の分散を図る。
<p>整備した施設の維持管理・運営^{注5)}計画及びその実施方法などについて、特に工夫した点を記入してください。</p> <p>注5) 施設を活用したまちづくりイベント等を含む。</p>	<p>維持管理に必要な経費、イベント費用は、参加費や会費等で薄く広く、捻出</p> <p>【維持管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コアグループを中心に、日々の畑作業は、ゆとりのある主婦・興味関心のある若者、経験豊富なシニア層などがボランティア活動として行う。 <p>【運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 週一回の平日ランチ会、月一回の季節の作物収穫体験や調理を含む「エコストーブde朝ごはん」会を開催する。 ・ 畑の掲示板による活動日の告知、口コミなどで活動をオープンにする。 ・ 港北区の地域のチカラ広報誌「地域力発見通信」、「ひっとプラン港北」広報紙などを活用し、幅広い周知・広報に務める。 ・ 地域で活動するNPO、防災ボランティア、町内自主グループ等とは、相互のチラシに掲載しあう、協働での事業実施をすすめるなどで、連携を深める。

3 実現性について

<p>地域（地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等）での合意形成や関係機関との調整結果の概要について記入してください。</p>	<p>地権者、近隣住民、地域住民との合意形成や関係づくりをはかった。</p> <p>【地権者】従来から苗のやりとりや草刈りを手伝う、収穫物の献上など関係を持ちつつ活動を行っており、無償での土地使用許可と計画内容についての理解を得ることができ、本整備計画の了解を得た。</p> <p>【近隣住民】計画を説明済みで、野菜等のおすそ分けも実施。直近の家と畑の境界は、目隠しの植栽でプライバシー確保することで了解を得ている。</p> <p>【地域住民】連合町内会会長の支援、町内会OB、学童指導員、拠点運営のNPOなど多様な方々の協力を得て進めている。</p> <p>イベント時には、集まった方々に本整備地で「やってみたいこと」などのアンケートを実施、「やってみたいこと」を計画に盛り込んだ。</p>
--	--

4 公共性について

<p>地域のどのような課題やニーズに基づいて整備計画が作成されたのか、また整備した施設が地域にどのくらい貢献するか記入してください。</p> <p>※ 第1次整備提案書よりも具体的に記入してください。</p>	<p>「住宅地のなかの畑」の特色を生かし、「農・食・環」の活動を通して会話がうまれ、人がつながり合える場として幅広い世代の交流を図る。</p> <p>【農食交流】誰かと話したい。ふらっと気軽に訪れると、そこに「畑」があり、草刈り機やシャベルが待っている。作業を行いながら、自然と会話がうまれる。ゆっくりお茶でも飲みながら、気候や食について思いを巡らせる。</p> <p>【環境学習】ソーラーパネルや発電量パネル、自然エネルギーを使った充電、生ごみコンポスト、雨水タンク、堆肥カブトムシ養殖などに触れることで、エコシステムを学ぶ。</p> <p>【災害拠点】防災も普段からの訓練が大事。この場所で備えられる設備や施設にふれ、体験することでライフライン停止時にとるべき行動を、新しく移り住んできた方々、若い世代や子ども・高齢者などより多くの地域住民が想定できる。</p>
--	---

5 費用対効果について

<p>整備コスト縮減について、特に工夫した点を記入してください。</p> <p>(材料の調達方法や施工業者への発注方法など)</p> <p>※ 整備に要する費用や労力の負担については、「2 創意工夫について」に記入してください。</p>	<p>地域の専門家への協力要請で、整備コストの大幅な縮減につとめた。</p> <p>【地域の専門家へ協力要請】</p> <p>計画をまとめるなかで連合町内会長の支援のもと、コアメンバーを中心に整備や運営を見据えた「もろおかエコステーションプロジェクトチーム」ができた。「設計・造園、資材の調達は地域の専門家」、具体的な労力は「参加型セルフビルド」を実行に移していくことでコストの大幅な縮減が可能になった。</p> <p>横浜市地球温暖化対策推進協議会との連携関係から、ソーラーパネル・コントローラー・蓄電池は、日天株式会社（ソーラーフロンティア）の協力の元、協力価格で調達予定。企業マッチング会の機会を得て、港北区の北友建設には軸組図を無償で作成していただく。</p>
--	--

6 地域まちづくりへの発展性について

<p>整備をきっかけとして、地域コミュニティが広がる又は深まる可能性、及び地域のまちづくり活動が活発化する可能性について記入してください。</p>	<p>まちづくりは楽しく住民主体で具体的に進めるのが重要</p> <p>【活動に触れて、自主的参加の意欲を引き出す】</p> <p>農作業、食を楽しむ場、ワークショップ、災害時の想定体験などで、共に汗を流し、楽しみや経験・体験を共有することで顔の見える関係ができ、地域活動に参加することが気軽になる。他の地域活動にも関わってみたいくなる。</p> <p>【エコステーションが作るコミュニティモデルの展開】</p> <p>本提案のエコステーションは、「農・食・環」の学習プログラム、「エネルギー自給自足」モデルとして、畑つきの土地さえあれば、他の地域でも比較的容易に複製でき、コミュニティモデルとしての展開が可能。</p> <p>自然観察、火を使う体験などをアピールし、子どもも大人も楽しみながら学ぶ場としての拡張は容易であり、ボーイスカウト、学校、学童、NPOとも連携して、野外活動やプレイパークとしての利用価値を高めることも可能。</p>
---	--

7 特にPRしたい点について

<p>提案について特にPRしたい点があれば、記入してください。</p>	<p>「未来へつながる、魔法のエコステーション」に期待してください。</p> <p>すでに町内で「エコステーション」への期待が高まっています。一次から二次へ準備する間につくられたネットワークをいかし、町内の結束を固め、「顔の見えるまちづくり」に貢献、だれもが住みやすくなるための「セーフティネット」がつけられる可能性が見え始めました。</p> <p>複数のテーマ「農・食・環」が関連して、循環する仕組みを取り込んだ本提案は、持続可能な地域づくりのモデルとして先進性をもっています。体験と交流を重視し、元来地域にあるものをいかす本提案は、開発型のまちづくりとは違う「ふるさと師岡」を保全しながら学び、未来へ伝えるためのプロジェクトでもあります。</p> <p>今後、本整備地近くにある重要な資源・師岡熊野神社「いの池」の環境整備にもつなげ、エコロジカルなコミュニティ形成の基盤をつくります。</p> <p>まだまだ、人口が増えている港北区。エネルギーアクションプランの発信拠点としても、このモデルづくりは重要です。</p> <p>この流れを止めないように、未来への1票よろしく願いいたします！</p>
-------------------------------------	---

記載内容について次の点を確認後、チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

ヨコハマ市民まち普請事業

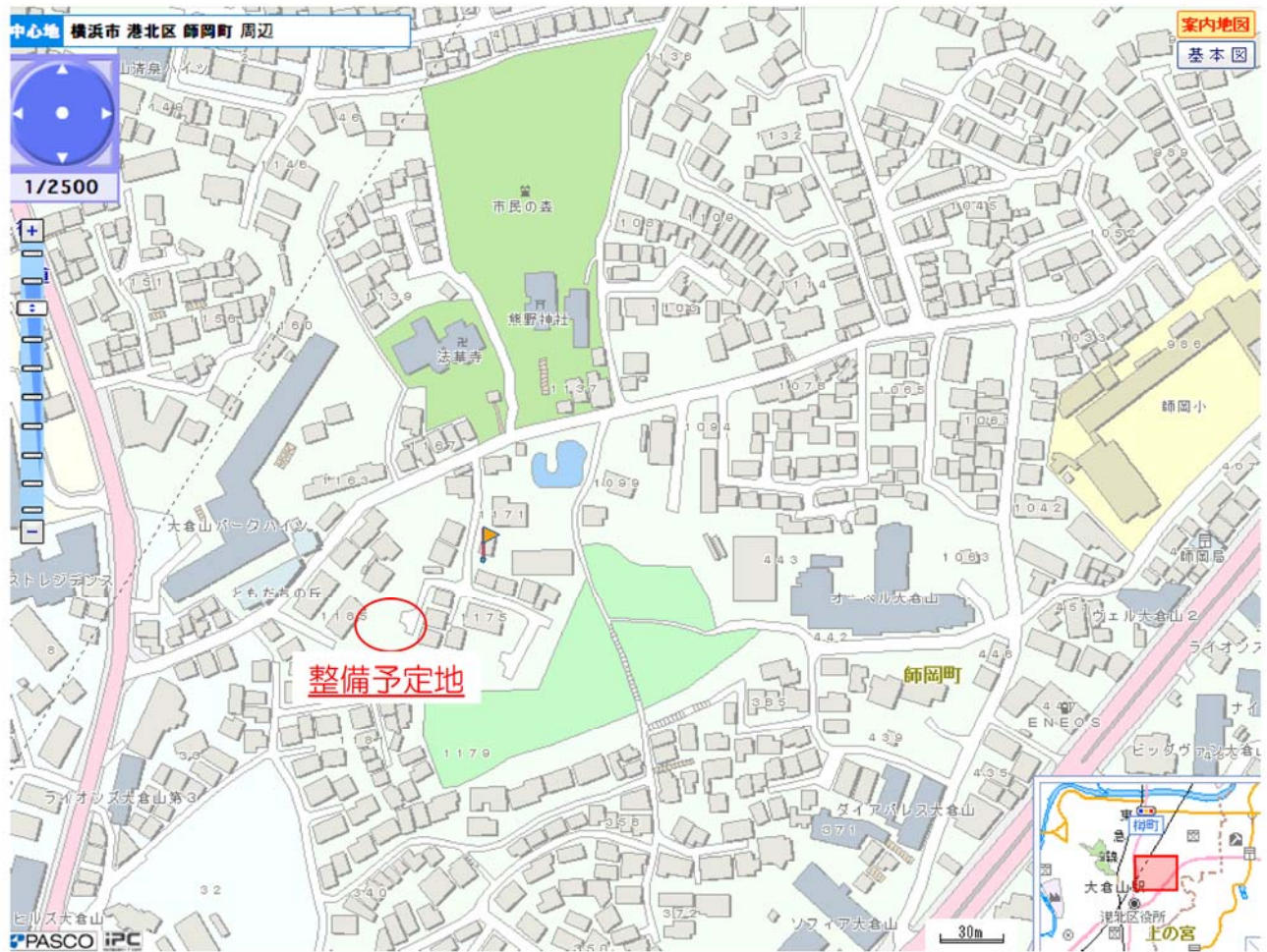
想定整備費用内訳書

※ 記入上の注意

- 「主な整備項目」「細目」欄の記入にあたっては、事務局と事前に十分調整してください。
- 「数量」欄については、やむを得ない場合を除き、「一式」と記入しないでください。
- 「地域住民等の参加」欄については、例えば地域が労力を負担する場合は、何人くらいが何日間くらい作業を行うかなど、できるかぎり具体的に記入してください。（見込みも含めて記入してください。）また、小中学校や子供会などが参加する場合は、その旨を明記してください。

主な整備項目	細目	数量	単価	計	地域住民等の参加 （費用又は労力の負担等）
お休み処 建築工事	地盤調整	1式		20万円	お休み処の、床工事までは専門家に依頼する。 流し台製作、設置、ゲート、物置小屋などは資材費のみとし、地域住民の手で、自主施工とする。
	基礎工事	1式		30万円	
	床の大引き、根太・	1式		40万円	
	床工事	1式		40万円	
	流し台、流し	1台		10万円	
	ゲートフレーム	1式		15万円	
	道具小屋	1台		5万円	
	施工管理費	1式		10万円	
				小計170万円	
外構、 植栽工事	整地	1式		25万円	整地は、専門家に依頼するが、他は資材費のみとし、地域住民の手で自主施工とする。
	掲示版	1カ所		5万円	
	ファイヤープレース	1カ所		3万円	
	ピザ釜	1台		5万円	
	かまど	1台		5万円	
	堆肥置き場	1台		3万円	
	雨水タンク	2台		2万円	
	アプローチ床	12㎡		12万円	
	植栽等	1式		10万円	
太陽光発電関連 工事	太陽光発電パネル関連工事 蓄電器関連工事 LFD照明 出力パネル（hems等）	1式		小計50万円	エントランスゲートに設置、資材費のみ計上、自主施工とする。
設計料	お休み処・造園	1式		小計10万円	
合計				300万円	

【位置図】



太陽とコミュニティで耕すもろおかエコステーション



学童保育の子どもたちとバザー
(師岡小学校)



ソーラーで動くグッズで
子どもたちと遊ぶ



自転車発電で
LEDに明かりをとまず体験



地球温暖化防止活動として
省エネ意識の普及に参画



人とまちがつながる
エコステーション

「話す」は楽しい♪



2次審査にむけて、地域のさまざまな方から意見を聞く



地主さん、ご夫婦も交えて、
炊きたてごはんを食べる
途中から近所のご家族も参加
いいね!



「エコストップ de 朝ごはん」
ソーラークッカーも大活躍。
畑から野菜を摘んで、その場で
調理…が楽しい



★まち普請事業コンテスト1次～今日までの活動

- 8/22 師岡熊野神社例大祭盆踊り参加
- 8/29 水素ステーション視察（横浜市地球温暖化防止推進協議会監事会）
- 9/4 今宿コミュニティガーデン視察 ①
- 9/1 整備地の湧き水水質調査 ②
- 9/11 師岡町内会役員に「まち普請事業」の説明
- 9.24 まち普請事業・中間報告/企業マッチング会
おうちエネルギーワークショップ開催@師岡町内会館 ③
- 10/7 エコストーブつくりワークショップ開催 ④
- 10/10 雨水タンク試運転（自宅にて）
- 10/12 まち普請会議@おへそ（コアメンバーとコンセプトの共有）
- 10/15 エコストーブ de 朝ごはん会@熊スタ畑にて「animart」取材 ⑤
- 10/22 ふるさと港北区民まつり@横浜市地球温暖化防止推進協議会でアンケート実施 ⑥
- 10/27 まち普請会議@おへそ（コアメンバーと計画の見直し）
- 10/28 パリ協定について議論+電気自動車ちょいモビ試乗（横浜市地球温暖化防止推進協議会幹事会）
- 11/2 師岡町内会連合町会役員+有志による現地視察 ⑦
まち普請会議@おへそ（連合町内会会長+有志参加：提案書の見直し1）
- 11/5 港北区「地域のチカラ」中間発表でまち普請提案の発表 ⑧
横浜市コミュニティハウス文化祭「はちみつティスティング」開催 ⑨
- 11/6 師岡町内会防災訓練参加 ⑩
- 11/9 まち普請会議@おへそ（連合町内会会長+有志参加：提案書の見直し2）
- 11/16 師岡熊野神社ストリートビュー・25万ビュー達成（googlemap）
まち普請会議@おへそ（プロジェクトメンバーと提案書の見直し3）
- 11/24 まち普請会議@おへそ（まちづくりコーディネーターと：提案書見直し4）
- 11/20 師岡表谷町内会懇親会でエコストーブ・ソーラークッカー披露 ⑪
- 11/26 師岡熊野神社 石川宮司に学ぶ「師岡の歴史と今」開催 ⑫
- 11/30 まち普請会議@おへそ（まちづくりコーディネーター+プロジェクトメンバーと提案書の最終見直し）
- 12/3 温暖化対策講座にて「エネルギーと食の入口づくり」報告予定 ⑬



⑪ 防災にも役立つエコストーブでご飯を炊く



⑦ 地域の専門家の協力者登場。またまた力強い助っ人が！



③ まずは我が家の消費電力を検査表から知るワークショップ開催



朝ごはん会の流れで畑の地主夫婦宅で開催することになった



⑩ 町内会防災訓練。来年は私たちの整備地も拠点になりたい



② 飲み水にはならないが「生きものには安全」を確認



① 今宿コミュニティガーデンにてソーニングを学ぶ

熊野の森もろおかスタイル 最近のアルバム



⑨ ハチミツを食べながらミツバチとの共生を考える、そして伝える



④ また新たに10台のエコストーブが完成！



⑥ 省エネ意識アンケート実施。若い方々も意識高い！「ちょいモビ」も大人気



⑤ おひさまさんさん。支援もかねて熊本から新米を取り寄せる



⑤「animart」に私たちの活動を掲載していただいた



⑫ 歴史を学ぶ会。師岡の歴史を知ること地域をますます好きになる



⑧ 「港北区地域のチカラ」助成事業。今年で3年目。まち普請挑戦中を発表



⑬ 岸先生から「温暖化と災害の関係」を学ぶことで、自分は何をすればいいか考えなきゃ